

地元の貴重な生きものの資源と 農村環境を保全

滋賀県：生きもの豊かな^{さと}里づくり^{くろだ}黒田

○団体の活動目的と経緯は？

【目的】

生きものに配慮した水路の管理や資源の保全管理、
農村環境の保全

【経緯】

以前より博物館によって地域の水生生物調査が行われていた。貴重な生きものが発見されたことを契機に『くろだ「田んぼの学校」』が開校され、地域住民が一体となった保護活動が開始されていた。「生きもの豊かな里づくり黒田」においても、生きものに配慮した水路や資源の保全、農村環境の保全を通して、子供たちと一緒に生きもの観察会などの活動を実施している。



水路



生きもの観察会

○環境保全施設と関連情報

【環境保全施設】魚道、魚巢・ホタルブロック、ビオトープ等

【活用した事業等】国営新湖北土地改良事業（末端水路黒田地区）

【保全対象生物】メダカ、ヤリタナゴ、マツカサガイ等

○どんな生態系保全の取組を実施？

1. 環境保全施設の維持管理作業

①水路の草刈りや泥上げ等

- ・自治会員に協力してもらい、1年に1回のペースで維持管理を実施

2. 生きもの観察会

①小学生を対象とした生きもの観察会

- ・地区内の水路で年に1回実施している。観察会では、行政やコンサルタント企業、元中学校教師にも協力頂いている。琵琶湖博物館の学芸員の協力も頂いていた



水路の様子

○継続した活動でこんな効果が！！



子どもと生きもの観察

■地域の生態系保全への理解

・活動の継続及び活動の説明会を開くことで、地域住民が保全活動に一定の理解を示してくれるようになっている。

■生きものの数や種数の保全に貢献

・生きもの観察会等で確認される生きものの数や種数などは維持されており、保全活動の効果の1つと考えられる。

○課題・苦労した点

■持続可能な維持管理

・高齢化、過疎化が進んでおり、泥上げや草刈り等に参加人数が減少している。

■経験、知識を持っている人材の不足

・生きものの専門的な知識や環境保全活動の経験者が少ない。

■地域住民の活動内容への理解

・生態系保全活動への参加者を安定的に確保することが難しい。

○工夫した点

■維持管理手法の効率化・簡素化

・行政の協力者と草刈りなどの労力の軽減するために、雑草育成を抑制するなどの手法を調査研究している。

■専門家、行政等の協力を得ること

・行政やコンサルタント企業や元中学校教師に協力して頂いている。

■多くの情報発信

・活動の説明会を開催し、地域住民への活動内容への理解を求めた。

○活動の特徴！！

■維持管理の労力はなるべく軽減

・水路法面の草刈りを不要とすることが出来る抑草ネットや水路内の水草刈りを不要とすることが出来る水生植物の繁茂を抑制する遮光シートの検証を行政と共同で実施している。



○団体の概要は？

- ・平成24年度に設立され、活動エリアは滋賀県長浜市木之本町黒田地区（旧木之本町辺り）である。
- ・地区の自治会による組織であり、人数は約180名。
- ・年間運営費は補助金90%、自治会費10%となっている。
- ・年間活動日数は、約10日である。

